

革命的旗

共産主義者同盟
(革命的旗)
中央機関紙

第 26 号
1980・10・5
定価 100円
(毎月5日・20日発行)

発行人 北 沢 晋
発行所 赤 流 社
電話 (03)407-3511
東京都世田谷区千歳
郵便局 私書箱4号
振替 (東京)7-86947

年間定期購読料
開封2500円(送料共)
密封3000円()

10・10
31・26

金大中氏らを殺すな緊急百日間
運動10・26闘争(予定)
寺尾差別判決六ヶ年糾弾
狭山闘争(場所、時間未定)



9.21金大中氏ら救出、民主化闘争支持、安保粉砕闘争に決起した戦闘的労働者学生(清水谷公園) この力を更に10月三千里塚東京総行動へおし拡げよう

- ### 十月東京総行動日程
- 12月 現地出発式
 - 13日 成田市芝山町抗議闘争
 - 14日 千葉県庁抗議闘争
 - 15日 運輸省抗議行動
 - 16日～18日 運輸省への連続抗議闘争 都内一斉情宣
 - 19日 二期工事阻止・完全廃港 東京総決起集会(正午・代々木公園) 集会後デモ

十月三千里塚首都総行動へ決起し、運輸省を震撼せしめよ!

鈴木政権の登場以来、日帝の戦争準備は日をおって激化している。ブルジョア階級独裁の国家権力の肥大化を自衛隊防衛予算別ワク措置、自衛隊機、艦船の美装整備等でゴリゴリとおし進めつつ、五五年体制を支えた官僚層の再編を急ぎ、直接に帝国主義戦争準備を進めている。これと軌を一にして靖国神社国家維持を始めとした天皇制・天皇制イデオロギー攻撃が激化し、これに反し排外主義宣伝が結びつけられ帝国主義戦争へのイデオロギー的統合が公然と主張されているのだ。

ブルジョア階級はこうした戦争と反動の策謀を一致体制構築へむけた策動の中で、かつての反戦平和運動の旗頭たる社共をしっかりと自己の社会的支柱にしていた。

「連立政権」を夢みる社会党にとって「安保、自衛隊容認」という小ブル平和主義から祖国擁護派への転落も、帝国主義に買収された労働者階級を基礎とする、彼ら日和見主義の本質の赤裸々なあらわれである。七月総評大会で榎枝・富塚は八〇年代総路線として「四団体共闘を軸とする労戦統一の促進」と八〇年代後半に社共連立政権を展望することを決定した。これは、総評改良主義労働運動の未来がもはやあともどりできないほど「連立政権」構想と、そのため

安保粉砕・日韓民衆連帯・空港粉砕を掲げ、十・一九代々木公園へ

農地死守をかね、ブルジョア階級の全重圧に抗しながら人民闘争の最前線に担う三千里塚闘争は、今日大きな歴史的転換期に突入してきている。その第一は、闘いが十四年の苦闘の中でブルジョア階級の強権的農地収奪に農地死守で対決し、独占資本の利益に従属させ

保の流れと結合し、一年前と明らかに異なる政治情勢を形作っている。かかる反抗の拡大の只中、八月二日、ブルジョア階級とその政府・鈴木は「第四次空港整備五年計画」を決定し、今日の反抗の最前線に形成する人民闘争の増大は、今春五月、韓国民衆の光州蜂起に激し革命的魂をゆきぶられ、日韓民衆連帯・反戦反安保の潮流と結合し、一年前と明らかに異なる政治情勢を形作っている。

かかる反抗の拡大の只中、八月二日、ブルジョア階級とその政府・鈴木は「第四次空港整備五年計画」を決定し、今日の反抗の最前線に形成する人民闘争の増大は、今春五月、韓国民衆の光州蜂起に激し革命的魂をゆきぶられ、日韓民衆連帯・反戦反安保の潮流と結合し、一年前と明らかに異なる政治情勢を形作っている。

十・二二社共分裂の本質

十・二二統一行動の新方針として「反戦兵、反海外派兵、反軍備、核禁止・軍縮の平和原則を軸として、政治反動と軍国主義化阻止国民会議」の設置を提案することに発している。これに対し、共産党は旧来の統一行動の確立事項であった「安保粉砕」が削除されたことをもって、統一集会への参加を拒否したのである。

確かに共産党が指摘するところ、社会党が「安保粉砕」をお

はちまちまよく後者の道を全力で突き進まねばならない。現実には対同盟の闘いはそのことを求める段階にようやく始めている。すなわち、闘う農業建設を通じて資本主義のもとでの農民の没落の強制を不可避としており、したがってこの没落に対して小商品生産者、小土地所有者という側面の防衛だけではなく、あくまでも労働者という側面の政治的自覚を闘いとり、それを空港粉砕・農地死守の闘いの基礎として確立し、もって自覚したプロレタリアートの陣営へ、社会主義統一戦線の一翼へと自己を組織する条件を闘いの中でつかみ始めているのである。

連立政権—右翼
労戦統一—反対!

だから決定的問題は、なんとしても人民闘争の主勢力たる労働者階級の政治的決起を闘いとり、これを通過するなかで労働者自身は、農民の未来が帝国主義のもとで安定したものとしてないこと、独占資本の収奪と生産手段の共有化のなかでこそ、すなわち社会主義を闘い取るなかでのみそれが可能であることを示し、解体に直向している農民の闘いを発展させるべく献身的に援助を行わなければならない。このための条件は着実に形成蓄積されつつある。先進的労働者の政治的決起は、右翼的「労戦統一」連立政権構想と対決し、反合・生活防衛闘争を発展させつつあるし、帝国主義戦争準備と対決する反戦闘争は、韓国民衆の決起との連帯を求め大衆行動となって噴出している。こ

可避としていくことである。こうした歴史的転換期は革命党の意識性がトコト問われるのである。旧来のまま、反対同盟の農地死守の闘いに依拠し、その直接の延長に日帝打倒を展望するのならば、それは社会主義革命の準備と結びつけ政治爆動を組織し、正規の攻囲軍建設と社会主義統一戦線創建の一環として三千里塚闘争の勝利をめざすのが厳し闘いの実践の中で問われるのである。われわれ

民の真の解放が可能だと考える修正主義である。いま、帝国主義戦争準備・差別と反動攻勢が強まるなかで、社会党をついたとしてきた日共が、労働者階級の社会主義へ向けた闘いを抑圧し、できるだけブルジョア階級の攻撃を弱めて欲しいという態度を改める余地はない。今回の分裂は共産党の更なる右傾化を強制される一里塚であるといっても過言ではない。闘う労働者は、この分裂の本質をみきわめ、安保粉砕・日韓民衆連帯・二期決起勝利「連立政権」—右翼「労戦統一」—反対!、プロレタリア社会主義を

た。ここに社会党の一層の体制内化、日和見主義が、今日の帝國主義体制の危機とその打開をねらった帝國主義戦争準備と反動の時代における社会排外主義への転落を示されている。これをなすにつけることはますます

だがしかし、しやかりきになつて批判している共産党は、この社会党を真に批判しきれていない。彼らは「日米軍事同盟の存続強化が、その廃棄かという対決が、日本の進路を定める八〇年代の二つの道の

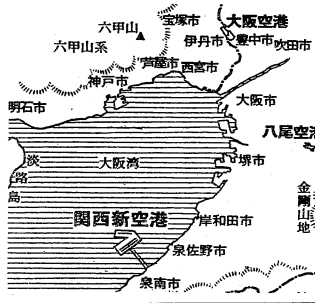
関西新空港建設粉砕

三里塚と共に前進しよう！

—つよまる帝国主義戦争準備と社共の反動化を徹底して暴露せよ—

一頁からつづく

の闘いの中で、労働者階級の政治的決起の条件はいよいよ増大している。その結果、左翼反動的傾向ではなく、この反抗の増大をいっそう確固としたもの、全国的なものとして、労働運動の管制高地をいかなる政治方向のもとで闘い、闘っていくのがリアルな問題として問われている。労働者階級の政治的決起を組織し人民闘争の主導勢力としてその力を成長させんとすれば、当然のこととして日和見主義との闘争を進展させねばならない。そして、かつての日和見主義、今日の社会帝国主義・修正主義潮流と容赦なく闘い、この労働者階級の制圧から労働組



合の指導権を奪取するために奮闘しなければならぬ。このことを正規の攻囲軍のいっそう強力な建設の中で果していかねばならぬのである。

三里塚闘争が、ブルジョア的合法性を突破し前進したことに恐怖をいだいたのが、この闘いに力をつけた社会党は、今では公然と先達の労働者の三里塚決起を抑圧し、不当逮捕された組合員のパージをやつたことになっている。いかかか、かかる彼らの真の姿を三里塚への政治的決起の組織過程で二分に、力をこめて人民の前に明らかにしなければならぬ。また、帝国主義労働運動の指導部・民社同盟は単に人民闘争の公然たる

必死になって、関西新空港を建設しようとしているのである。

運輸省の「第四次空港整備五年計画」は、関西新空港建設と三里塚二期工事を二大計画として、稚内、旭川、鳥取、対馬など一五の地方空港のジェット化、羽田空港の沖合拡張を推進しようとしている。地方空港のジェット化は、対ソ戦における本土「防衛」と、馬のジェット化に露骨にみられるように朝鮮侵略戦争準備にかけられる空爆、兵員輸送のためである。かつて大阪の人間が、初めてジェット機を見た朝鮮戦争。米軍のジェット機が、伊丹空港（現大阪空港）から発進し、朝鮮を爆撃した。

敵対者にとどまらず、「農民は過保護」を称して労働者階級にデマ宣伝をもちこみ、あたかも今日進行する生活破壊が農民によって引き起こされたかのように労働者の農民への敵対を煽っている。

だからわれわれは、労働者階級の政治的決起を闘いながら、彼らの本性を暴露し、右翼的「労働統一」「連合政権」の策動が実は労働者階級ばかりでなく農民にとつても、また共通の粉砕すべき動向であることをはっきりと突きだしてゆかねばならぬ。こうした観点から今秋三里塚東京行動を全力で闘いぬきつつ、ほうふつとわき上っている反戦・反安保・日韓民衆連帯をこの三里塚決起と結

ある。帝国主義戦争に待り出されるのが嫌な人、反戦の気持を抱いている人が、広範にこの空港建設阻止を自分のものとして、闘っていくように暴露、宣伝、煽動を展開していかなければならぬ。

闘いの布陣の強化へ

関西新空港建設阻止闘争を拡大発展させ、勝利させていくためには、どうしても社共に対する大衆の幻想を闘争の初期から断ち切っておかねばならぬ。

三里塚農民の闘いを条件闘争におしとめようとして、実力闘争に敵対し、反革命の姿を農民の前に公然と露わにして、放逐された日共は、関西においても、必ず空港建設を認めようという条件闘争を狙い、分裂策動を計るであろう。また社会党は、反黒田を掲げ、岸を自・公・民と共に支持し、大阪府知事に仕立て上げた党であり、その岸がしゃかりきになって、推進しているこの空港建設に反対などするわけがない。「連合政権」の自治体版とはこういうものなのだ。

この歴史的事実からもわかるように地方空港のジェット化と関西新空港建設、三里塚二期工事は、日帝の戦争準備の重要な一環としてあらゆる犠牲を人民におしつけ強行せんとしているのだ。

だから、関西新空港建設阻止闘争を反戦闘争としての側面からも闘っていくかねばならぬ。

日帝は、泉州住民にだけ騒音や公害などの犠牲を押しつけようとしてくるのではない。戦争準備一戦争遂行に向けた空港建設によって、労働者階級と勤労人民全てに犠牲を押しつけようとしているのだ。

びつけ、闘いを発展させ、そのすべての軸が社会主義と労働運動の結合であることを鮮明にせねばならない。そして人民闘争の発展を促し、同時に計画的系統的に全戦線に進出し、正規の攻囲軍建設を強化しつつ、革命の主体的条件の整備を果していかねばならぬ。

十・一九の力を更に十・二一へ

十月東京行動はこのことをわれわれに要求している。十・一九日の一週間闘争を組織し、組織しぬき、首都をゆるがす対運輸省抗議行動を爆発させ、十九日全力で代々木公園に決起しよう。そして

有りえない。またJ.C.同盟化つまり御用組合を進めている以上「景気が良くなるなら空港でもなんでもええ」として、反動的な公共事業を要求（経営参加路線）し、敵対しなすれ、空港建設阻止闘争をやるはずがない。総評右派幹部との決別が、ここでも問われている。総評内の帝国主義と社

この闘いにそそぎこまれた政治的力を社共の分裂集会成为って組織された十・二二国際反戦闘争へ「安保粉砕・日韓民衆連帯二期決戦勝利」のスローガンをかけ革命的に介入し、闘う労働者の進めべき道を示していかなければならぬ。社会党が安保条約放棄を投げすて、公明・民社との共闘へと転換を行い、共産党を排除することによって発生した十・二二統一実行委中央集會の分裂は、すでに「安保・自衛隊容認」を右翼的「労働統一」「連合政権」構想の前

も陰に隠されてはいないと考えている。「真の愛国者の党」からする「批判」がなんらの積極性をもたせていないことは自明である。結局、彼らは小ブル平和主義の破産が突きつけられた結果、大きく動揺しつつ、先進的部分を引きつしよとしていっているのだ。彼らにもはや日韓民衆連帯・反戦・反安保を語る資格はまったくない。

全国の闘う労働者諸君、十・一九革命的隊伍を組織せよ、社共にかわる労働者階級の単一党を創設せよ、を合言葉に闘いぬこう！

会主義の分裂を押し進める見地から多くの労働者と戦闘的労働組合をこの闘争に参加させねばならぬ。

闘いの発展のため

以上、かんたんに関西新空港が戦争と革命の時代の中で、一大軍事空港として建設されようとしていくこと、修正主義・労働貴族と

した大合理化全造船つづしの攻撃への闘いを総括し「奪われたいものを返す」二日目の闘いへの突入を確認し、同時に鈴木戦争準備内閣による軍事大団体化の立場を確立することである。

そしてまた今日進行する右翼的「労働統一」に対する全造船としてののろけりとした反対の立場を明確にすることである。

全造船は、九六〇年代の右からの組織分裂攻撃によって当時の大単産が今では七千名（同盟・造船機械は十七万名）を結集するに過ぎない少数単産へと追いつかれ対資本との関係においてこれ以上を独力で解決する力を大幅に後退させてきた。そしてまた今日総評指導部は無形の圧力を全造船に加え全造船が「労働統一」反対に動くことを喰ひとめようとしている。

九月十五日、反対同盟は対運輸省抗議闘争を含む十月東京行動を正式に発表した。この東京行動は、昨年九・一六集會の四項目の提案とそれを具体化した六月二五日全国代表者集會で固められた方針の環である。東峰団結小屋はすべての皆さんの東京行動への参加を訴える。

昨年末から今年にかけて運輸省公団はあいつで記者会見や談話を発表し、「二期工事着工の条件整備に全力をつくす」旨を明らかにした。そして、成田用水、公用地の貸し付け、農協移転等のギマンにみちた農業振興策を中心にして、反対同盟の分断、懐柔をくもるんできたのであった。しかし反対同盟は、農民の生産基盤を狙った敵の意図を正確につかみ、闘う農業建設を通して自らの立脚点をうち固め、敵の攻撃のポイントを逆に武器へと転化している。

七月、政府運輸省はパイプライン埋設工事の期限内完成をきり、来年三月の完成期限を二年数ヶ月延長することを明らかにした。それにもない、ジェット燃料暫定貨車輸送の延長を関係自治体に通告する旨を発表した。政府の威信をかけた閣議決定でパイプライン埋設工事期間中の暫定貨車輸送期限をほごにし、昨年末には既にその布石ともいえる動労千葉へ大量処分を行なっていることをみれば、燃料輸送問題が政府にとって困難な局面にあるのは確かであろう。反対同盟、動労千葉、ジェット闘争支援共闘会、パイプライン埋設阻止千葉共闘の四団体は関係自治体への抗議と非協力要請を申し入れている。

決別しなければ、この闘争に勝利できないことを述べたが、今後は「景気が良くなるなら空港でもなんでもええ」として、反動的な公共事業を要求（経営参加路線）し、敵対しなすれ、空港建設阻止闘争をやるはずがない。総評右派幹部との決別が、ここでも問われている。総評内の帝国主義と社

今日「労働統一」問題から目をそらすことはこうした下部組合員の声にそむくことのみならず全通、全電通の闘う労働者排除を黙認することであり、何より全造船を自己の置かれた位置から言っても決して許されることがないものである。

たしかに今大会において「軍産労働者として鈴木内閣の反動攻撃に全力を挙げて闘うことを確認」したことは大きな意義を有するものである。造船産業は同時に兵器生産現場でもあり労働者が結集した。大会では下村弁護士から、大

くりを進めようとする計画である。反対同盟は驕特法一土地利用計画案に取って、芝山町全域へのピラミッドを行なった。このなかで、土地利用計画が二期工事を前提としており、空港周辺の土地利用の規制、無人化をねらったものであることが暴露された。また反対同盟はこの情宣を、期工事反対署名に結びつけ、芝山町民の多くが二期工事に反対していることも明らかになってきた。

反対同盟は六・二五前夜から南は九州、沖繩に至る全国交流行動を通して、各地の闘いと交流を実現してきた。また、全国の労働

こうした全造船の方針は、帝国主義戦争への奉獻一一致体制のなかに労働組合運動を組み込もうとする右翼的「労働統一」とは相いれることのできないものであることは明白である。

だからこそ、さきに述べたように右翼的「労働統一」に対する「労働統一」の左派結集の中核的存在へと押し上げ、更には軍産労働者としての反戦反安保闘争への決起を勝ちとるために奮闘する。

九月十三日、自己破産突破闘争一周年、田中機械闘争を勝利させる大会が、大阪・中之島公会堂で開催され、千四百人の労働者が結集した。

大会では下村弁護士から、大

勝利をわが手に

学を結集して闘われた連月連日の飛行阻止闘争、百万人署名運動を通して、全国の支援勢力の隊伍を整えてきたのである。自らの立脚点においてもそうである。九月五日の辺田部落での成田用水拒否決議や、青年行動隊を中心とした自力の農業基盤整備一実験田への取りこみは、闘う農業建設の大きな前進である。

すべての労働者、友人のみならず、東峰団結小屋は全力で総行動を闘いぬく決意です。そして一人でも多くの参加を期して次のことをよびかけます。①一連の運輸省、公団の攻撃をバククロし、②広範な人々への宣伝と、③それを通じた労働者、人民の決起を促し、④百万人署名を運輸省にたたきつけ、抗議行動をやめぬこと。ともに闘わん！

こうした全造船の方針は、帝国主義戦争への奉獻一一致体制のなかに労働組合運動を組み込もうとする右翼的「労働統一」とは相いれることのできないものであることは明白である。

だからこそ、さきに述べたように右翼的「労働統一」に対する「労働統一」の左派結集の中核的存在へと押し上げ、更には軍産労働者としての反戦反安保闘争への決起を勝ちとるために奮闘する。

九月十三日、自己破産突破闘争一周年、田中機械闘争を勝利させる大会が、大阪・中之島公会堂で開催され、千四百人の労働者が結集した。

大会では下村弁護士から、大

とある。彼らにとって、個別資本のみならず上部・関連資本に対する使用者概念拡大へと闘いを突きあげ、地域共闘、港合同を前進させ、西高東低の資金相場までつくり、全国の中小の戦闘的労働組合に「田中機械のように闘おう」といわしめてをほりくす脅威である。

まさに、資本は死んでも組合は残り、自主生産を続けていることを示している。資本家のものでしか生産管理、財務管理、分配などをやっつけたいという世間の常識をうち破っているこの闘いが、全国の労働者全体に広まり、自分たちもやれるんだとたちあがることを資本家階級はちいばん恐れているのだ。

全金・田中機械の労働者は、工場占拠・自主生産の苦闘の中から労働者階級とは何なのか、社会主義とは何なのかを確かめようとしている。この闘いを防衛し階級的・戦闘的労働組合運動の再生と、工場細胞一単一党建設の闘いへ合流してゆくことによって、労働者階級に問われてくる大きな課題ではないか。

最後に大和田委員長が、闘いをふり返りながら右翼的「労働統一」の決意を表明し、田中機械闘争勝利させる会に結集する各労組が拍手の中を登壇し、最後まで共に闘いぬく決意を確認しあつた。

地域・全国のスクリム

七九年九月十三日自己破産申立、十一月四日全員解雇、そして七九年六月二日、機動隊を導入しての強制執行という暴挙に、抵抗・自立・解放をかかげて権力・資本との真向うから闘いをいどむ全金・田中機械支部の闘いは、今、血と汗と喜びでわれらが築きし職場をわが力で守りぬかん」とした二年間の苦しい闘いを土台に、地域の、全国の仲間とがつつりスクラムを組んで、勝利にむけて大きくふみだそうとしている。

九月十三日、自己破産突破闘争一周年、田中機械闘争を勝利させる大会が、大阪・中之島公会堂で開催され、千四百人の労働者が結集した。

大会では下村弁護士から、大

現場から

全造船第45回大会

軍産労働者を反戦反安保へ一左派結集の中核を築け

「造船機械労働者の階級的労働運動を強めよう」のメインスローガンのもとに全造船労働組合第四十五回定期大会は山口県下松市において九月一日から三日間開催された。一九七五年以降の大合理化攻撃によって、全造船の各分会は指名解雇、企業倒産攻撃、組織破壊攻撃という数えきれないほどの攻撃にさらされてきた。しかし一方で昨年六月十日の「玉島現地一万人集会」―東京総行動、そして今年五月二五日「佐伯現地一万人集会」と連続した反戦闘争の圧倒的成功は多くの他産別の労働者の結集をバネに徐々にではあるが確実に造船資本を追いつめて

今日「労働統一」問題から目をそらすことはこうした下部組合員の声にそむくことのみならず全通、全電通の闘う労働者排除を黙認することであり、何より全造船を自己の置かれた位置から言っても決して許されることがないものである。

たしかに今大会において「軍産労働者として鈴木内閣の反動攻撃に全力を挙げて闘うことを確認」したことは大きな意義を有するものである。造船産業は同時に兵器生産現場でもあり労働者が結集した。大会では下村弁護士から、大

全金田中機械
9.13—2周年集會—
1400人大結集！

—資本家がなくても労働者は生産を行える—

阪地裁民事六部の道下判事が関係連動をかかえの管財人とグルになり、商事法務出版・NBLなる雑誌に、田中機械倒産処分を暗躍している右翼暴力団・志洋社関西本部の上申書をほめ、田中機械に手前と偏見に満ちみちた寄稿をしていることがバククロされた（こういう例はベトリ闘争でもあった）。そして全港湾、部落解放同盟大阪府連、東京ベトリ支部や、港合同に結集している高齢の女性労働者、青年労働者、壮年労働者からの連帯発言。東京争議団や大久保製機労働者からの激電、梅田新道で全大

とある。彼らにとって、個別資本のみならず上部・関連資本に対する使用者概念拡大へと闘いを突きあげ、地域共闘、港合同を前進させ、西高東低の資金相場までつくり、全国の中小の戦闘的労働組合に「田中機械のように闘おう」といわしめてをほりくす脅威である。

まさに、資本は死んでも組合は残り、自主生産を続けていることを示している。資本家のものでしか生産管理、財務管理、分配などをやっつけたいという世間の常識をうち破っているこの闘いが、全国の労働者全体に広まり、自分たちもやれるんだとたちあがることを資本家階級はちいばん恐れているのだ。

全金・田中機械の労働者は、工場占拠・自主生産の苦闘の中から労働者階級とは何なのか、社会主義とは何なのかを確かめようとしている。この闘いを防衛し階級的・戦闘的労働組合運動の再生と、工場細胞一単一党建設の闘いへ合流してゆくことによって、労働者階級に問われてくる大きな課題ではないか。

10/9

十月行動勝利に向けた講演・学習会

午後五時三十分

講義 三部塚政会館

主催 東峰団結小屋 神奈川維持会

東京風車の会 学生実行委

社会主義継続革命の理論と実践とは何か

中国で第五期三回全国人民代表大会が開催された。この大会は「四人組」を排除し、三年をへて社会主義建設の方向を確認するものであった。この社会主義の現代化の評価をめぐって日本の革命的翼のなかでさまざまな議論がよんでいる。われわれは、この中国の社会主義建設が国際共産主義運動のなかでどのような位置にあり、そして影響力を与えていくかをみる必要がある。今日の「四つ」の現代化が中国の経済的困難を突破する唯一の方法である。しかしそれがかつての中国の社会主義建設の経験と理論化して正しく実践に移されようとしているのかについては多くの問題が存在する。

「革命をつかんで、生産を促す」を否定して、あらゆるものに「唯生産主義」のレッテルをはって排撃した。このような方法は、当然にもさまざまな理論上実践上の矛盾を生みだした。理論的に「経験主義」は「教条主義」よりは危険である。と主張して、「老幹部」は「民主派」、民主派は「走資派」であると「規定」した。党内ブルジョアジーという概念まで作りだし、党内闘争をすすめていた。中国共産党の路線闘争の中心環はブルジョアジーの追求に追求して社会主義の生産力の発展、経済建設を否定して「革命をつかみ、生産を促す」観点を打ち捨て、多くは人民内部の矛盾として平和的な思想闘争で解決しなければならぬのに、多くを敵味方の矛盾として暴力的な階級闘争で解決しようとした。その彼らの理論的武器が「ブルジョアの権利の制限」であった。「ブルジョアの権利」の制限については「四人組」の方法では大きな混乱をまねくだけである。マルクス主義の方法では社会主義社会の一定の歴史的段階において「ブルジョアの権利」が残存することをまず明らかにして、その解決の方途をさし示すことである。それは全面的に「一歩に廃絶せんとする」のは一種の「空論」主義である。つまり原則をふりまわすのではなく、暫時的に

今日の「四つ」の現代化で経済面での前進面については、「中国の国民経済」（周報七九年二六号）に詳しく展開されているが、多くの問題をかかえている。

「四つ」の現代化で経済面での前進面については、「中国の国民経済」（周報七九年二六号）に詳しく展開されているが、多くの問題をかかえている。

「四つ」の現代化で経済面での前進面については、「中国の国民経済」（周報七九年二六号）に詳しく展開されているが、多くの問題をかかえている。

「四つ」の現代化で経済面での前進面については、「中国の国民経済」（周報七九年二六号）に詳しく展開されているが、多くの問題をかかえている。



中国共産党の第五期全人代三回会議の様子は、この写真に写っている。会場は北京の人民大会堂であり、数千名の大衆が参加している。写真中央には、会場の入り口付近に立つ人々の姿が見え、背景には大会の様子がぼんやりと映っている。この写真は、中国共産党の歴史的な出来事である第五期全人代三回会議の重要性を象徴している。

毛沢東思想評価をめぐる路線闘争の中心環

今日では、林彪と「四人組」は一つの傾向として結びつけられ、極左路線として断罪されている。これは社会主義建設の前途、反修闘争の方法をめぐるものとして多岐にわたっている。現在の中共の

第五全人代の諸特徴

今日では、林彪と「四人組」は一つの傾向として結びつけられ、極左路線として断罪されている。これは社会主義建設の前途、反修闘争の方法をめぐるものとして多岐にわたっている。現在の中共の

中国共産党はソ連を反面教師としうるか (上)

第五期全人代三回会議の位置 — 佐野雅之

この「四人組」問題と密接に結びつけられて論ぜられているのは、文化大革命である。第五期全人代三回会議において華国鋒主席は「四人組」によるさまざまな問題、「走資派」のレッテルをはらわれて追放された幹部の名誉回復や幹部政策や知識人政策なども改善されてきており、そのなかで文化大革命の重大な是非の問題も基本的に解決している」と報告している。今日文化大革命については、

「四人組」批判は、十一全会の「政治報告」のようなやや乱暴な規定からは転換してきたものか、シボルックに極端化されている。その公式の見解は次のようにまとめられている。「この社会主義（四人組）はどんな特徴であるか。第一、生産力の水準が非常に低い。人間は永久に遅れた道具で忙多忙な手工労働に従事しなければならぬ。これが革命のシンボルである。生産を発展させてはならない。生産の発展は、唯生産主義論

今日の「四つ」の現代化で経済面での前進面については、「中国の国民経済」（周報七九年二六号）に詳しく展開されているが、多くの問題をかかえている。

「四人組」批判は、十一全会の「政治報告」のようなやや乱暴な規定からは転換してきたものか、シボルックに極端化されている。その公式の見解は次のようにまとめられている。「この社会主義（四人組）はどんな特徴であるか。第一、生産力の水準が非常に低い。人間は永久に遅れた道具で忙多忙な手工労働に従事しなければならぬ。これが革命のシンボルである。生産を発展させてはならない。生産の発展は、唯生産主義論

「四人組」批判は、十一全会の「政治報告」のようなやや乱暴な規定からは転換してきたものか、シボルックに極端化されている。その公式の見解は次のようにまとめられている。「この社会主義（四人組）はどんな特徴であるか。第一、生産力の水準が非常に低い。人間は永久に遅れた道具で忙多忙な手工労働に従事しなければならぬ。これが革命のシンボルである。生産を発展させてはならない。生産の発展は、唯生産主義論

「四人組」批判は、十一全会の「政治報告」のようなやや乱暴な規定からは転換してきたものか、シボルックに極端化されている。その公式の見解は次のようにまとめられている。「この社会主義（四人組）はどんな特徴であるか。第一、生産力の水準が非常に低い。人間は永久に遅れた道具で忙多忙な手工労働に従事しなければならぬ。これが革命のシンボルである。生産を発展させてはならない。生産の発展は、唯生産主義論

単一のマルクス・レーニン主義党創建のための論戦

戦旗・共産同が「人民史観」にこめた第二次ブンド克服の限界性(上)

はじめに

読者諸君・同志諸君、第二回大会の中で、我々は虐殺された小西同志の革命的遺志を継承し、獄中同志の敢闘に学び、

われわれと戦旗・共産同の四つの論争点

我々は、人民闘争のダイナミックな展開と人民闘争の指導をめぐったブンド系諸派との綱領論争の更なる前進をめざし、戦旗・共産同と共闘を組む、六・二二闘争、九・二二闘争を組織し準備し実行した。

国際論

イラン・イラク戦争の政治性格

六月三日未明、イラク軍はイラン国境をこえ、イラン国内の油田地帯と南部主要都市への攻撃を開始した。これに対し、イラン政府は「押しつけられた戦争は受け立たざるを得ない」と声明し、革命の利益を徹底的に擁護し、

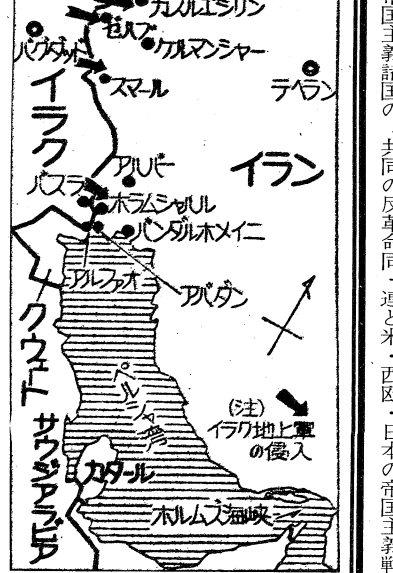
単一党創建のための論争点

しかし、この四点は、戦旗・共産同を含めたブンド系の圧倒的多数の急進民主主義を反映しており、マルクス・レーニン主義の我々からすれば、弱点があり、論争し改善してゆかねばならない点が多

革命、資本を没収し生産手段の社会化をめざす社会主義革命の要求を集中して実現することの一致を

「戦旗」(四二号)の中で、戦旗・共産同は「人民史観」の立場に立ち、「帝国主義史観」を捨て、

その根拠として「情勢の基調は、被抑圧民族人民の総決起に対し、



この解放組織は、「アラビア半島人民同盟」と仮称され、サウジをはじめイエメン、ヨルダン、シリア、クウェイトなどを結集させているといわれている。

イラン二月革命はサウジアラビア等の被支配階級、その国民の過半数以上がイスラム・シーア派といわれる人々の革命への気運を大きく盛り上げた。事実、七九年十一月西欧の植民地主義化に反対するメッカ襲撃事件が発生すると同時に、サウジ東部の油田地帯で大規模な反米デモがくりひろげられ

日韓重要論文集 好評発売中 定価 三百円

ソ米の介入を排し、反帝反植・反覇権を波及せよ 今回のイラク・イラン戦争の政治性格はこうした階級的内容をもっている。われわれは、